

議員県外研修報告

総務

移住者の定住と働く場の確保について学ぶ



総務常任委員長
森 治史

協議会を設立、弱者から高齢者まで共に安心して暮らせる地域づくりを目指して「地域支え合い体制の充実強化」に取り組むが、平成の大合併からは周防大島町が事業を継承し、現在に至っている。

7月8日、山口県周防大島町大島総合支所で「I・U・Jターン定住と移住者の働く場の確保の取り組み」の研修。平成16年10月1日4町の合併により周防大島町となる。面積約138km²、人口2万1511人（65歳以上9485人、47・1%）。平成9年に先進的な取り組みとして、国、県、郡内4町と郡内各種団体で、周防大島高齢者モデル居住圏構想推進

平成24年4月23日に町、議会、商工会、農協、漁協が連携して促進に取り組むために周防大島町定住促進協議会を立ち上げ、「住まいと仕事」の情報提供に取り組む。空き家については町から宅建業協会へ調査依頼をし、協会員が移住希望者と空家所有者の仲介をし、平成14年〜24年で調査件数56件、登録件数38件で平成19年〜24年の間の移住者18件となっている。

課題は知人以外への貸借への不安、年に数日の帰省、家財への処分費用、リフォーム物件への対応不足、水回り（五右衛門風呂、汲み取り式トイレ等）の改修費用などの問題がある。現在は保健、学校、保育所、農林水産などの手続が各支所（15分〜20分かかる）に分かれており、何とか一本化できないかと思っている。

田舎を知るにはまず住んでみることを言うことで、「お試し暮らし制度」を設け、期間は2週間2万円（光熱水費含む）、3週間、4週間（1週間1万円の割増し。日割りはしない）を行なっている。

若者定住支援「無料島人紹介所」を設け、対象者を20代〜40代の方である程度島暮らし構想を持たれている方に、島の起業家、自然農業を営む若手農家、移住女子訪問などの取り組みと、移住希望者の生活設計を含む相談を町内在住の専門家が受けている。

仕事については定住促進、地域産業経済の充実を図るため「周防大島町無料職業紹介

所」を開設して、移住希望の方または町民へ町内及び近隣事業所の雇用関係の斡旋と町内求人情報の掘り起しのため、平成25年5月より開始。黒潮町も移住者の定住には仕事（長期雇用）が一番の課

題である。周防大島町と黒潮町の担当職員間での両町の課題について研修会を開く事で問題の解決が見いだせると思うので、まず双方の交流会を開催すべきではないか。

産業建設

広島県呉市でジェネリック医薬品の取り組みを学ぶ



産業建設常任委員長
坂本 あや

呉市は人口約24万人が暮らす街です。人口の約31%の7万4千人が65歳以上の高齢者で、人口の23%5万4千人が国保加入者、そのうちの47%

が65歳以上の高齢者でした。呉市は、戦前呉海軍工廠があり、あの「戦艦大和」を建

造した街で、現在は入館者数800万人の大和ミュージアムとして当時の歴史を伝えていました。今回私たちは見学することはできませんでしたが市民にとって歴史と平和の尊さ、当時の科学技術の素晴らしさを伝える大切な施設となっているようでした。

さて、私たちが学ぼうとした呉市の国民健康保険の取り組みは、呉市も本町と同様市の財政が逼迫し財政健全化を進めるための第4次長期総合